

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2491300055		
法人名	株式会社おりがみ		
事業所名	グループホームみずひき		
所在地	三重県名張市赤目町丈六243-9		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2491300055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2491300055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年3月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

行事レクリエーションやおやつ作り、利用者・スタッフが共に楽しめる行事を毎月開催しています。暖かい日には中庭に出て日向ぼっこや、季節を感じていただけるよう花見や紅葉、初詣にも出掛けています。訪問看護ステーションと連携を図っており、毎週の訪問に加え、リハビリや看護相談、看取りといった医療面も積極的に取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2008年4月の開設から地域に根付いた事業所であるが、2022年10月に日本中がコロナ禍で危機的な状況の中、管理者は就任した。就任し約1年後の昨年の12月には、2人のコロナ罹患が出たが、事業所一丸となった取り組み、それ以上の感染は防げた。また20数名の職員の個性を把握し、その個性に合った指導の下、協力体制の整ったチームとして利用者への支援に取り組んでいる。どんな問題も全職員で話し合い、全員で決定するように心掛けている。職員の年齢層は多様で、小さい事でも真剣に考慮する管理者の元で職員は一丸となり支援に取り組んでおり、今後の成長が楽しみな事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見えやすい場所に掲げ、常に意識を持つよう心掛けている。又、理念に基づき、一人一人に寄り添った支援を心掛けている。	事業所独自の「一人ひとりの思いを受け止め笑顔あふれる居心地の良い場所を提供する」を理念と掲げ、全職員で共有しながらワンチームとして「ぶれない支援」を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて、区長、民生委員、地域の警察官、市の職員に参加していただき2ヶ月に一度情報交換をしている。11月には市民センターにて秋祭りが開催され、手作りの作品を出展している。	「認知症サポーター養成講座」は地域からの要望であり、地域の「タウン誌」に案内が乗り沢山の参加者がある。毎年市民センターへの出展は、利用者の楽しみでもあるが、地域にも喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも声を掛け、認知症サポーター養成講習を実施している。地域の方々からのお声に応え、介護保険制度など介護関連のご相談、ご説明等も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、地域の警察官、市の職員、家族に参加していただき、利用者の現状、事故報告等を報告している。警察官からは地域の様子等を報告していただき、地域の情報交換もしている。	運営推進会議は昨年の6月から対面開催しており、毎回地域からの参加者も多い。入居の条件や事業所の取り組みなどの問い合わせ、利用者の入院、事故報告、看取りの状況等の報告もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の施設用ボックスをチェックする為にも頻りに訪問を心掛け、その際には担当者や挨拶をかわし相談しやすい環境づくりを行っている。2ヶ月に一度、運営推進会議に参加していただいている。	市役所に設置してある、各事業所へのボックスの確認にはよく出かけ、随時話している。ボックスの中身は殆どが色々な案内状であるが、行政との交流には貴重な時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を実施し意見交換をしている。些細なことでも職員間で共有しケアの見直しをしている。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月毎に開催している。職員には年1回の身体拘束や虐待防止についてのアンケートを行い、身体拘束、不適切なケアへの問題意識を高め、それを基本として全職員で話し合い、支援に繋げるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を行い、意見交換をしている。不適切ケアから虐待に繋がる恐れがあるということを職員間で常に認識し支援に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2/14に管理者が研修を受ける。その後職員に内容を周知する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	聞き取りやすいよう丁寧にご説明させていただき、理解・納得していただけるまで説明を行っている。入居時まで疑問点などあればいつでも連絡するよう説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に生活状況や身体状況を伝え、その際に家族の意見や要望を聞き取っている。毎月写真入りの手紙を送り、生活の様子を伝えている。面会のない方は電話や手紙で伝えたり要望を確認している。	定期的に管理者から電話で、利用者の状況や事業所からの情報など、伝え話し合っている。毎月、写真付きの手紙を送っており、家族アンケートからは感謝の言葉ばかりである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り、意見や要望を聞いている。改善があれば会社代表に連絡し改善策を立てている。	職員からの要望などは1対1で話し合うのではなく、要望や希望を書面に起こし、全職員に回覧後、職員会議で納得するまで話し合い、決定する事にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を用いて処遇改善加算に反映させている。労働基準を参考に給与水準の見直しや休み希望も聞き入れている。社内での受講や費用を支援するなど、資格を取得しやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者との報告連絡をしっかりとっており、各職員の報告も随時行っている。事故報告書等を踏まえながら、事故再発防止、油断してしまう事柄等考えトレーニング・指導を行う事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ会社の介護支援専門員による講習会を開催し、勉強の場を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時3日間、声掛け、観察を集中して行い、職員で共有することで早期に本人への理解、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で、状況や要望をお聴きしている。何かあれば、いつでも連絡していただくよう伝えている。入居後数日は電話で様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じてリハビリの導入や訪問診療医への打診を図ったり福祉用具の検討に努めている。訪問看護師とも随時、状況を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要以上に支援は行わず、自身でできることをしていただき、家事等手伝ってもらえることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙のやりとり、LINE電話で話せる環境づくり、毎月写真付の手紙で様子をお知らせ。毎年本人から家族へ年賀状を書いて送っている。可能な方は受診をお願いしたり、支援上の拒否があれば協力してもらうこともある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会などに制限があったが、現在は家族や知人などの面会、外出、外泊が可能である。	毎週、自宅への外泊や、奥さんの運転で利用者とドライブへ出掛ける等、家族の協力で叶えられた。オンラインで家族とのお喋りや、手紙のやり取りなど、継続支援に力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月、行事レクとおやつ作りを開催している。日中はなるべくリビングルームにて過ごしていただき、体操や頭を使った簡単なレクリエーションにも取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りでの退所の方が多く、家族から写真の要望などがあれば対応させていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後の数日間、集中観察をし、都度記録に残し職員全体で情報共有できるように努めている。それを踏まえケアプランに反映している。	日々の支援中での気付きや、行動、感情の様子などを、細かく用紙に記入している。職員会議で、介護支援専門員と共に細部にわたり話し合った結果、貴重な資料となり、介護計画に活かすことが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族をはじめ、市の職員や主治医、介護支援専門員からの聞き取りや記録類からの情報収集、本人とのコミュニケーションも図り、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護ケアを行うなかで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの聞き取りや、記録、モニタリングを行い、介護支援専門員が作成している。介護計画に関する家族との話し合いは、受診時や、面会時、電話等で行っている。	介護支援専門員は介護業務にも入っており、利用者の普段の様子は全職員と共有できている。また職員会議で利用者の思いや要望も把握しており、一人ひとりに添った介護計画が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテにて日々の個別記録を入力し、介護計画の見直しにも活用している。受診の記録は訪問看護ステーションのスタッフも観覧することができ共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現時点では取り組めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターで行われる作品展に出品している。駐在の警察官に運営推進会議やイベントに参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同行し、かかりつけ医へ通院受診をしている。受診が困難な利用者に関しては訪問診療を利用している。	全員が入居前のかかりつけ医であり、家族が事業所が通院介助を行っている。又、事業所の協力医も緊急時や相談等にも対応しており、毎週、訪問看護による健康管理もあり、24時間対応も可能であり、連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師に来ていただき、健康観察等行っていただいている。受診内容の情報共有もしている。訪問看護師に指示を仰ぎ、協力医療機関との連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関とこまめに情報交換を行い、退院後の支援の相談などもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、看取りについては入居時にも説明を行っている。本人、家族の意向を確認し協力医や訪問看護師とも情報共有や連携を図っている。看取りのマニュアルを作成しスタッフルームに掲示、誰もが落ち着いて対応できるよう努めている。	事業所として家族、本人の意向があれば可能な限り、看取りに取り組んでいる。今年度は2名の看取りがあった。その中のひとりの利用者は、絶縁状態の娘と連絡を取ることが出来、感謝された。新人社員の貴重な体験でもあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一に備え、急変時の対応、救急車利用のマニュアルを作成し掲示している。全職員が対応できるよう、応急手当等、看護師による勉強会を設ける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練では、ヘルメット着用や避難誘導、水消火器での訓練等行っている。避難場所は市民センターに協力をお願いしている。駐在所が目の前にあり日頃から交流している。隣には消防団がある。	年2回消防署員立ち合いのもと、地震、水害、火事を想定した防災訓練を行っている。事業所の近隣に交番、消防団、避難場所の市民センターがあり、日頃から交流を行い、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より、人格の尊重、プライバシーを守る対応を心掛けている。虐待防止研修のなかで、言葉かけを勉強し、職員同士で話し合いの場を設けている。不適切な対応があれば、即注意をし指導を行っている。	基本姿勢として支援中には、まず見守ることを優先し、手を出し過ぎないように心掛けています。接遇に関しては入社時に研修しているが、その後は支援中での注意となっている。	一人ひとりを尊重した支援を全職員で行っているが、管理者の要望として、接遇の勉強をしたいと話される。原点に立ち戻り、更なる充実した支援に期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	明確な思いや希望を表すことが困難な利用者が多いため、クローズドクエスションでコミュニケーションをとる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を尊重し、体調や環境を考慮しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大半の方は家族が衣類を持ってこられるが、そうでない方は職員と一緒にお店に行き本人が衣類を選び購入している。又、2ヶ月に一度訪問散髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯と味噌汁は職員が作り、副食は外部委託したものを湯煎や解凍をしている。梅干しやふりかけを希望の方には購入していただいている。手作りおやつレクでは準備等一緒に行っている。	元旦にはおせち料理、クリスマスには洋食と季節に応じた献立が工夫されている。毎月職員と利用者が協力し、手作りおやつレクを行い、一緒に楽しみながらホットケーキや白玉などを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や水分量を把握、記録している。体調にあわせ栄養補助食品を利用している。嚥下状態により食事形態・とろみの検討や介助方法の工夫もしている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。口腔内のトラブルは歯科医に相談している。訪問歯科も利用している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、それにもとづいて排泄パターンを把握したり、サインや表情からくみ取ってトイレ誘導を行い、排泄支援に努めている。こまめに声掛けをし、自立に向けた支援を心掛けている。	電子カルテや記録、医師・看護師などと協力しながら、一人ひとりの状態を把握した支援を行っている。細部に渡った支援でひとりでトイレの使い方が出来る様になった利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りや電子カルテにて排泄状況を共有している。水分摂取を心掛け、かかりつけ医とも相談し、下剤の調整など行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めずに利用者の体調、状況を見ながら入浴を実施している。入浴が困難な利用者にはシャワー浴・足浴を利用して入浴を楽しめるよう工夫をしている。拒否のある方は、タイミングをうかがいながら対応している。	基本は週2回午前中に入浴しているが、医師の指導でシャワー浴の利用者もいる。入浴拒否の利用者の様子から、居室での穏やかな雰囲気の中で進めたところ、スムーズに入浴される等、一人ひとり添った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や現在の状態を把握し、安心して休めるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬準備・服薬直前・服薬後のダブルチェック体制の徹底と新しく処方されたり変更があった場合の情報の周知を図っている。完全に飲み込むまでの確認もしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味があることから役割分担に繋げ、できることをしていただいている。毎月、行事レクやおやつレクがあり、気分転換にもつながるような支援を考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日には、外へ出て日向ぼっこをしたり、近隣にある小学校・保育園の様子をみることのできる散歩コースへ出掛けている。季節を身近に感じていただけるよう、桜や紅葉を見に行ったり、初詣にも出掛けている。	日課の散歩は、小学校から保育園へ、その後、駐在所へのコースと、まちの保険室から近くの畑へのコースを歩いている。又、ある利用者は大好きな洋服を買いに出かけたり、合同では、桜見学やイチヨウ見学へ、庭での外気浴は日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に貴重品があれば、家族へお返ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンラインでの電話や手紙のやりとりを積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の消毒や換気は定期的に行っている。壁には、季節の壁面飾りを作成し、四季を感じていただけるよう工夫をしている。	玄関から目の前に大きなテーブルが見える。そのテーブルを程よい間隔で、男性4名、女性4名の利用者が、穏やかに囲んでいる。季節毎に職員利用者で作った壁面が自慢であると話される。温度・換気は定期的に確認し、明るく居心地良いフロアである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士のトラブル時は席替えを検討したり、ソファの設置で独りの空間の確保や気の合う者同士の居場所となるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家庭で慣れ親しんだものを持ち込んでもらうようにしている。	1階に2名、2階に7名の居室、広さや窓からの明かり、景色等は似ているが、一人ひとりの個性や趣味を活かした居室である。ドアにはそれぞれ異なった色の線が縦長に1本塗られており、自分の居室が分かるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時間や日付が分かる利用者には居室に時計・カレンダーを設置するようにしている。トイレ等の表示をしている。居室、フロアのテーブル席には利用者の名前を表示している。		